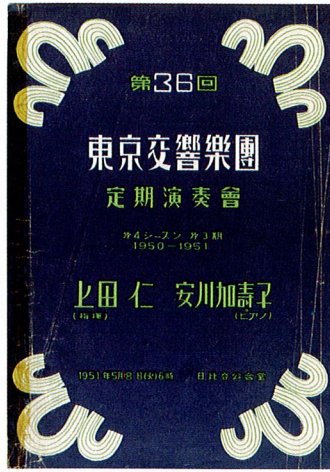


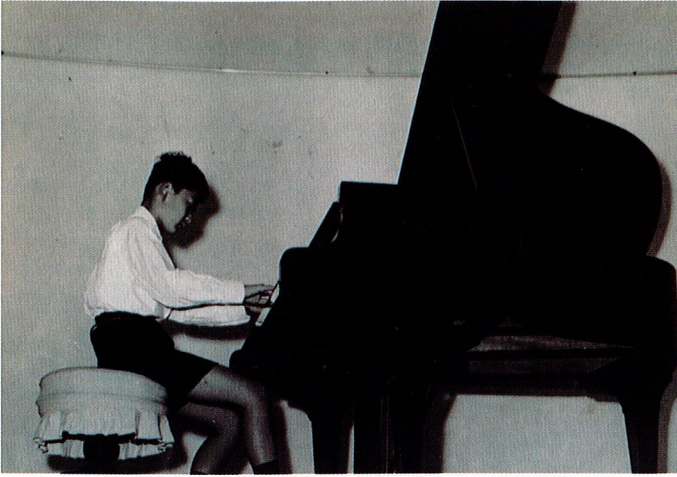
# 秋山和慶

## 人生は各駅停車で

### 第1回 オーケストラとの出会い



秋山さんが小学生の頃、東京交響楽団定期演奏会の公演プログラムはこのようでした。



ピアノに向かう子供の頃の秋山さん。

人生、夢中になれるものがあると楽しいですよ。僕も小さい頃から現在までいろいろなことに夢中です。そんな僕の「好きなもの」についての話をしたいと思います。

まず音楽の話をしてしまおう。僕がピアノを弾き始めたのは3歳の頃です。母親は普通の主婦でしたが、今の東京藝術大学、当時の東京音楽学校の卒業生でしたので音楽が好きで、商社マンの父親も音楽が大好きでした。その頃は戦争が始まって社会が殺伐としてきていましたが、将来趣味で音楽を楽しめるようにと、両親がピアノを習わせてくれたのです。幼い頃にピアノを始めたおかげで絶対音感がつき、今、指揮者としては重宝しています。

少しするとピアノだけではなくオーケストラが好きになり、親と一緒に演奏会に出かけるようになりました。実は僕は、小学校のときから東京交響楽団の定期会員だったんです。当時の演奏会場は日比谷公会堂で、東響の日本人指揮者は上田仁先生、森正先生、齋藤秀雄先生の3人が代わりばんこに

振っていました。もちろんその頃の僕は「音楽家になりたい」なんてゆめゆめ思いませんでした。よもや自分が東響の指揮者になるとは……！ 人生は実に不思議です。

小学校高学年から中学校にかけてはポプスもたくさん聞きました。暇さえあればFEN\*を聴いていたんですが、ジャズ全盛時代でしたから、ジャズの名曲が毎日のように流れていましたよ。と同時にFENにはクラシック音楽の番組があつて、トスカニーニが指揮するNBC交響楽団の演奏を毎週放送していました。この演奏に夢中になりましたね。僕がトスカニーニの名前を覚えてしたのはFENです。そうしたらある週、トスカニーニがいなくなつて、後継者はグイド・カンテルリだと放送しているんです。放送で「若手」と連呼していたので、どんな指揮者なのかとても興味がありました。若いのにNBCという名門オケでトスカニーニの後を継ぐなんてすごいなあ、と思っていたら、飛行機事故で亡くなつてしまった。すごく残念でした。

だんだんとオーケストラがうらやましくなってきた中学2〜3年頃、桐朋学園の学校のオーケストラができて、当時短大2年生だった小澤征爾さんが振る演奏会を聴きに行かないかと誘われました。中・高校生が主体のオーケストラでしたから学生は自分と同年代で、そのなかには堤剛さんや潮田益子さんがいましたけれど、その演奏は衝撃的でした。アンサンブルの緻密さに打ちのめされましたね。今では笑い話だけど、弦楽器に関しては、当時聴いていた東京交響楽団よりもはるかにうまかつたんですよ(笑)。

（談）

\*米軍の極東放送。現在のAFN。



©川村悦生

### 秋山和慶

1941年生まれ。64年2月に東京交響楽団を指揮してデビューのち音楽監督・常任指揮者を40年間務める。東京交響楽団桂冠指揮者、ミューザ川崎シンフォニーホール・チーフアドバイザー。